

おかあさんの声

大阪府 創価学園関西創価小学校 二年 田代^{たしろ} 直樹^{なおき}

ぼくの一日はおかあさんの本の読みきかせでおわる。

おかあさんがようじをすませて本をひらくと、ぼくと妹と弟はあそんでいたおもちゃそっちのけでおかあさんのよこにかけよる。

2つしかないおかあさんのとなりはとくとうせきだ。

本をひらくとみんなでそのせかいにとびこめる。コロナでりよ行に行けなくても、海でも山でも外国でも大むかしやみらいにだつて行けてしまう。うつくしい白雪ひめも、おそろしいオオカミも、きょうりゅうもうちゅう人もその声はいつも聞い

ているおかあさんの声だ。

ぼくはその声を聞くとあんしんしてぐっすりねむれる。

おかあさんこれからも、いろんなせかいをたびし
ようね。

時にはぼくが読んであげるね。